

2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月2日

上場会社名 相鉄ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9003 URL <https://www.sotetsu.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 滝澤 秀之
 問合せ先責任者 (役職名) 経営戦略室部長 (氏名) 森 肇 TEL 045-319-2043
 四半期報告書提出予定日 2023年11月13日 配当支払開始予定日 2023年12月1日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	124,350	8.0	13,081	188.8	12,586	209.3	8,947	273.3
2023年3月期第2四半期	115,098	10.3	4,529	350.0	4,069	959.5	2,396	—

（注）包括利益 2024年3月期第2四半期 9,837百万円（154.5%） 2023年3月期第2四半期 3,865百万円（—%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	91.32	—
2023年3月期第2四半期	24.46	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	658,411	154,154	23.4
2023年3月期	646,951	145,789	22.5

（参考）自己資本 2024年3月期第2四半期 154,055百万円 2023年3月期 145,696百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	10.00	—	15.00	25.00
2024年3月期	—	20.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日（2023年11月2日）公表いたしました「2024年3月期第2四半期（累計）連結業績予想と実績の差異及び2024年3月期連結業績予想の修正並びに剰余金の配当・期末配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	269,500	7.9	23,400	63.1	21,900	72.0	14,300	104.9	145.96

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2023年11月2日）公表いたしました「2024年3月期第2四半期（累計）連結業績予想と実績の差異及び2024年3月期連結業績予想の修正並びに剰余金の配当・期末配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	98,145,499株	2023年3月期	98,145,499株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	171,234株	2023年3月期	170,058株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	97,974,847株	2023年3月期2Q	97,977,347株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記の業績予想に関する事項につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループの当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、鉄道業、ホテル業において需要の回復傾向が見られ、増収・増益となりました。

連結営業収益は1,243億5千万円(前年同期比8.0%増)となり、連結営業利益は130億8千1百万円(前年同期比188.8%増)、連結経常利益は125億8千6百万円(前年同期比209.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は89億4千7百万円(前年同期比273.3%増)を計上するにいたしました。

各セグメント別の状況は以下のとおりであります。

a. 運輸業

鉄道業におきましては、2023年3月に全線開業した相鉄新横浜線や鉄道駅バリアフリー料金の収受開始に伴う増収があったものの、「新しい生活様式」の定着やエネルギー価格高騰の継続により、引き続き厳しい事業環境となりました。このような事業環境のもと、新たにいずみ中央駅、ゆめが丘駅、星川駅にホームドアを設置し、安全性向上を図るとともに、引き続き、海老名駅改良工事及び鶴ヶ峰駅付近連続立体交差工事を推進いたしました。営業面では、「夏のそうにゃんスタンプラリー2023」や「～Come Back 1990s～ 8000系&6000系写真撮影会」を開催したほか、「相鉄ミステリートレイン」を運行するなど、沿線の魅力向上に努めました。

バス業におきましては、関東運輸局長の認可に基づき、5月より武相ブロック(対キロ運賃区間)の運賃改定を行いました。また、高速乗合バス「海老名駅/綾瀬市役所～御殿場プレミアム・アウトレット」線の運行を新たに開始したほか、8月に4年ぶりとなる「横浜駅西口～東京サマーランド」線を運行し、収益力の向上に努めました。

以上の結果、運輸業全体の営業収益は208億7千9百万円(前年同期比19.2%増)、営業利益は22億2百万円(前年同期比914.4%増)となりました。

b. 流通業

スーパーマーケット業におきましては、東京23区内1号店となる「そうてつローゼン品川南大井店」を9月27日に東京都品川区に開業いたしました。既存店舗では、川崎市麻生区の「そうてつローゼン柿生店」をはじめとする17店舗で改装を実施したほか、オンラインデリバリーサービス「Uber Eats」を並木店で開始する等、収益力の向上に努めました。また、横浜市と「健康に配慮した食環境づくり」に向けた連携協定を締結し、栄養バランスを考えた「ハマの元気ごはん弁当」を全店で販売したほか、そうてつローゼン公式のInstagramを開始し、情報配信力の強化にも取り組みました。

その他流通業におきましては、6月にコンビニエンスストア事業において無人決済店舗「ファミリーマートニューウマン横浜/S店」を開業する等、厳しい事業環境のなか、積極的な営業活動に努めました。

以上の結果、流通業全体の営業収益は477億7千4百万円(前年同期比1.9%増)、営業利益は1億1千6百万円(前年同期比10.4%増)となりました。

c. 不動産業

不動産分譲業におきましては、平塚市の「グレースシア湘南平塚海岸」、藤沢市の「ブランズシティ湘南台」及び東京都港区の「ブランズタワー芝浦」の集合住宅並びに横浜市旭区の「グレースシアライフ横浜三ツ境」の戸建住宅59戸を分譲いたしました。

不動産賃貸業におきましては、星川駅～天王町駅間高架下の新施設「星天qlay(ホシテンクレイ)」Bゾーンの2月オープンに続き、4月に「YADORESI(ヤドレジ)」を中心としたDゾーンをオープンいたしました。また、相鉄新横浜線の全線開業により、都心へのアクセスが向上したことを契機に、オフィスや複合のビルなどの取得についてエリアを拡大のうえ、取組み強化を図りました。この一環として、5月に「相鉄新横浜ビル(富士火災横浜ビル)」、6月に「相鉄都立大学駅前ビル」、9月に「相鉄代々木上原ビル(CABO uehara)」を取得しました。さらに沿線開発においては、ゆめが丘大規模集客施設の施設名称を「ゆめが丘ソラトス」に決定し、2024年夏の開業予定に向けて建築工事を進めたほか、横浜駅きた西口鶴屋地区における市街地再開発事業(施設名称「THE YOKOHAMA FRONT」)について引き続き事務局業務に注力する等、魅力ある沿線の街づくりを推進いたしました。このほか、11月に開業50周年を迎えるジョイナスでは、8月より50周年ロゴとメッセージポスターを館内に掲示して告知を開始するなど、集客と販売促進の強化を図りました。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は236億2千5百万円(前年同期比21.9%減)、営業利益は64億4千2百万円(前年同期比13.3%減)となりました。

d. ホテル業

ホテル業におきましては、新型コロナウイルス感染症分類の変更に伴い、大幅な需要回復が見られました。9月24日に開業25周年を迎えた「横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ」において、セレブレーション企画として様々なメニューや商品を販売し、集客力及び収益力の向上に努めました。宿泊特化型ホテルにおいては、新型コロナウイルス宿泊療養施設運用のため休業していた「相鉄グランドフレッサ 大阪なんば」が、5月17日から営業を再開いたしました。

以上の結果、ホテル業全体の営業収益は254億4千9百万円（前年同期比80.9%増）、営業利益は35億6千4百万円（前年同期は営業損失36億7千7百万円）となりました。

e. その他

ビルメンテナンス業におきましては、スマートフォン等を活用したクラウド型施設管理ソリューション「Facility Log®」（ファシリティエログ）や自動清掃ロボット等、ICTの積極的な活用による業務の効率化を推進したほか、積極的な営業活動により新規物件及び既存物件における周辺業務受注拡大を図るとともに、良質かつ安定したサービスの提供に努めました。

その他の各社におきましても、業績の向上を図るべく、積極的な営業活動に努めました。

以上の結果、その他全体の営業収益は119億3千5百万円（前年同期比6.5%増）、営業利益は7億5千2百万円（前年同期比69.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債、純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産につきましては、有形固定資産の増加等により前連結会計年度末に比べて114億6千万円増加し、6,584億1千1百万円となりました。

負債は、有利子負債の増加等により30億9千5百万円増加し、5,042億5千7百万円となりました。なお、有利子負債の残高は、借入金・社債合わせまして3,641億1千6百万円となり、88億8千6百万円増加いたしました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により83億6千4百万円増加し、1,541億5千4百万円となりました。なお、自己資本比率は23.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績等を踏まえ、通期の連結業績予想につきましては、2023年7月27日に公表しました数値から変更しております。

主にホテル業が前回発表予想より回復傾向にあることにより、営業収益は2,695億円（前回予想比1.2%減）、営業利益は234億円（前回予想比4.9%増）、経常利益は219億円（前回予想比10.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は143億円（前回予想比13.5%増）を見込んでおります。

詳細につきましては、本日（2023年11月2日）公表いたしました「2024年3月期第2四半期（累計）連結業績予想と実績の差異及び2024年3月期連結業績予想の修正並びに剰余金の配当・期末配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

※業績予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,156	10,578
受取手形及び売掛金	12,483	12,251
棚卸資産	28,600	34,879
その他	12,087	13,620
貸倒引当金	△38	△12
流動資産合計	73,290	71,318
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	182,353	184,333
機械装置及び運搬具(純額)	36,141	37,659
土地	262,415	271,451
使用権資産(純額)	15,399	16,138
建設仮勘定	14,432	14,014
その他(純額)	5,968	5,707
有形固定資産合計	516,710	529,305
無形固定資産		
のれん	1,008	903
借地権	3,546	3,546
その他	5,091	4,778
無形固定資産合計	9,646	9,228
投資その他の資産		
投資有価証券	12,972	13,674
長期貸付金	1,341	2,067
退職給付に係る資産	12,491	12,735
繰延税金資産	6,703	6,265
その他	14,313	14,332
貸倒引当金	△518	△516
投資その他の資産合計	47,303	48,559
固定資産合計	573,661	587,093
資産合計	646,951	658,411

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,307	9,928
短期借入金	37,893	63,708
1年以内償還社債	—	10,000
リース債務	1,173	1,398
未払法人税等	1,346	3,717
契約負債	5,927	7,235
賞与引当金	2,336	2,209
その他の引当金	119	156
資産除去債務	26	50
その他	35,456	25,331
流動負債合計	93,586	123,736
固定負債		
社債	185,000	175,000
長期借入金	132,337	115,408
リース債務	16,919	18,094
再評価に係る繰延税金負債	23,223	23,223
退職給付に係る負債	18,540	17,873
長期預り敷金保証金	27,802	26,994
資産除去債務	3,097	3,385
その他	652	540
固定負債合計	407,574	380,520
負債合計	501,161	504,257
純資産の部		
株主資本		
資本金	38,803	38,803
資本剰余金	26,980	26,981
利益剰余金	75,842	83,320
自己株式	△353	△356
株主資本合計	141,273	148,747
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,166	5,118
土地再評価差額金	△394	△394
為替換算調整勘定	△411	△384
退職給付に係る調整累計額	1,062	968
その他の包括利益累計額合計	4,423	5,307
非支配株主持分	93	98
純資産合計	145,789	154,154
負債純資産合計	646,951	658,411

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業収益	115,098	124,350
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	82,573	81,026
販売費及び一般管理費	27,995	30,242
営業費合計	110,568	111,268
営業利益	4,529	13,081
営業外収益		
受取利息	110	109
受取配当金	93	104
為替差益	525	806
受取補償金	43	43
受託工事事務費戻入	70	23
雑収入	221	79
営業外収益合計	1,064	1,165
営業外費用		
支払利息	1,417	1,451
雑支出	107	209
営業外費用合計	1,525	1,661
経常利益	4,069	12,586
特別利益		
固定資産売却益	3	26
投資有価証券売却益	—	3
補助金	447	480
受取補償金	114	—
移転補償金	—	10
特別利益合計	565	520
特別損失		
固定資産売却損	—	4
固定資産除却損	86	47
固定資産圧縮損	428	471
減損損失	—	52
事業撤退損	428	1
その他	1	0
特別損失合計	945	577
税金等調整前四半期純利益	3,688	12,528
法人税、住民税及び事業税	996	3,595
法人税等調整額	296	117
法人税等合計	1,292	3,713
四半期純利益	2,396	8,815
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	△131
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,396	8,947

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	2,396	8,815
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,128	952
為替換算調整勘定	395	24
退職給付に係る調整額	△55	△94
持分法適用会社に対する持分相当額	—	139
その他の包括利益合計	1,468	1,021
四半期包括利益	3,865	9,837
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,848	9,831
非支配株主に係る四半期包括利益	16	5

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	ホテル業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
営業収益								
外部顧客への 営業収益	17,227	46,860	28,249	13,829	8,932	115,098	—	115,098
セグメント間の 内部営業収益又は 振替高	295	1	2,020	239	2,275	4,833	△4,833	—
計	17,523	46,862	30,269	14,068	11,207	119,931	△4,833	115,098
セグメント利益 又は損失(△)	217	105	7,427	△3,677	444	4,517	11	4,529

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	ホテル業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
営業収益								
外部顧客への 営業収益	20,562	47,769	21,531	25,188	9,298	124,350	—	124,350
セグメント間の 内部営業収益又は 振替高	317	4	2,094	260	2,636	5,313	△5,313	—
計	20,879	47,774	23,625	25,449	11,935	129,663	△5,313	124,350
セグメント利益	2,202	116	6,442	3,564	752	13,078	2	13,081

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。